

世宗の西征

時に青海の羅卜藏丹津ラポツタンチン、清國に叛き遁れて準噶爾に走る。清廷使を遣して之を索む。策妄那布坦命を拒みて應せず。然れども清敢て迫る所なく、只管哈密、巴里坤、吐魯番及布隆苦城等に戍兵を置き、専ら防禦に任せしむ。雍正五年(千七百二十七年)策妄那布坦死し、其の子噶爾丹策零ガールタンソリン立ち尙ほ屢、清國の邊疆に寇す。同七年、世宗準噶爾を討たんと欲し、靖邊將軍傅爾丹に命じて阿爾泰山アルタイに屯し、以て北路に向はしめ、又寧遠大將軍岳鐘琪をして巴里坤を出で、西路に向はしむ。會、羅卜藏丹津、準噶爾に在て、其の族羅卜藏舍楞ラポツアンシユガンと相謀り、潜に策零を殺し、準噶爾を奪領せんとしたるが事露れて執へられ、策零其臣、特磊トルイを清廷に遣し、羅卜藏丹津を献せんとす。然るに清軍既に發すと聞きて之を罷む。是に於て世宗、大將軍に令し、暫く進軍を緩うすべきを命ず。

同八年(千七百三十二年)世宗、傅爾丹、岳鐘琪を北京に招きて、方略を授けんと欲し、提督紀成斌、副將軍巴賽を擧げて代理せしむ。紀成斌、敵の我に遠きを以て敢て備へず。策零之を探知し、虚に乗じて科舍圖コシエトを刼かす。總兵樊廷、副將治大雄之を拒ぎ、總兵張元佐の來援に依て、力戰七晝夜漸く彼を卻く。世宗、樊廷等を稿ひ、紀成斌を下して